UTSUNOMIYA Blitzen TIMES

Jun.2023
Vol.84

Race Report

06.03　TOUR de KUMANO 2023　Stage-1
06.04　TOUR de KUMANO 2023　Stage-2
06.23　全日本選手権 個人タイム・トライアル
06.25　全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース

第23回ツール・ド・熊野2023 Day-1

短縮された難しいコースで谷順成が6位フィニッシュ

Digest movie

強豪スプリンター揃いの中でしっかりもがけたという谷

本来なら6月2日開催の古座川国際ロードレース（UCIアジアツアー1.2）も含めた和歌山3連戦となる予定だった。しかし、日本列島各地を襲った大雨の影響で古座川の開催が見送られ（レースキャンセル）、ツール・ド・熊野のみが行われることになった。

無事開催はできたものの、ステージ1の「熊野山岳コース」では雨のため通行止めになった箇所があり、コースの一部が変更された。この日の最高標高地点、49・6㎞地点にある札立峠を通るコース北側がカットされ、名物の山岳ポイント「千枚田」を含むコース南側だけを使用する形に。総距離も104・5㎞から、63・7㎞になった。

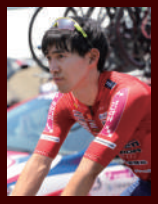
700mのパレード走行後から早々にアタック合戦が開始されるが、なかなか決定的な一撃は生まれない。1回目の千枚田への上りを前に、前週のツアー・オブ・ジャパン（TOJ）にも出場したジャンバルジャムツ・セインベヤール選手（トレンガヌ・ポリゴン・サイクリングチーム）が単騎で逃げ出すことに成功した。

セインベヤール選手は集団と1分ほどのタイム差で千枚田に突入。軽快にペダルを回し、小さな田が階段上に綺麗に斜面に並ぶ千枚田のKOM（山岳ポイント）を目指したが、JCLチーム右京が中心となってスピードアップした後続はそれを許さなかった。JCLチーム右京の山本大喜選手がKOMをトップ通過すると、チームメイトの岡篤志選手が続いた。

そこから山本選手はギアを上げると岡選手を引き連れて集団を引き離し、後続に30秒ほどのアドバンテージで2回目の千枚田を目指す。宇都宮ブリッツェンのキャプテン・谷順成はレース前に「TOJで活躍したチームや選手が熊野でも活躍すると思う」と語っていたが、TOJで個人総合優勝を果たしたネイサン・アール選手を擁するJCLチーム右京の動きは脅威だ。

70㎞にも満たない短縮されたコースでは、逃げは早めに捕まえなければあっという間にフィニッシュが来てしまう。2回目のKOMを終え、山本選手と岡選手は逃げ切り体制に入った。谷は追走グループで様子を見たが、各チーム入り乱れた20名ほどの集団ではローテーションもままならない。先頭の2名とのタイム差は縮まることはなかった。

結局、山本選手と岡選手が見事に逃げ切ることに。JCLチーム右京がワンツーフィニッシュを成し遂げ、山本選手が勝利した。後続集団は3位争いのスプリントになり、谷は6位に入った。



【谷順成のコメント】

コースが短縮された影響で最初から速かった。千枚田に突入しても自分としては余裕があり、チームとしても3枚ほど（選手を）残していたが最後の千枚田でチーム右京の2名に先行を許してしまった。後続がアタック合戦と牽制で回らなかった時に、うまく逃げ切られタイム差が開いてしまった。（3位争いの）ゴールスプリントでは、スプリント力のある選手たちの中でもしっかりもがくことができた。明日に向けていい状態で終わることができたと思う。過去の大会を見ると数秒差でもひっくり返すのは厳しいコースで、右京はチーム力があり難しいがチャレンジする価値はある。みんなで総合優勝を目指して積極的に走りたい。

ツール・ド・熊野 2023 ステージ1　リザルト

1位	山本大喜（JCL チーム右京）	1:28:58	6 位	谷 順成	+00:36
2位	岡篤志（JCL チーム右京）	+00:00	22 位	沢田 時	+01:37
3位	ジャンバルジャムツ・セインベヤール（トレンガヌ・ポリゴン・サイクリングチーム）	+00:36	31 位	小野寺 玲	+02:07
			62 位	阿部嵩之	+05:45
			71 位	フォン・チュンカイ	+07:14
			82 位	本多晴飛	+08:37

第23回ツール・ド・熊野2023 Day-2

谷順成が総合11位 チーム力向上が明らかに

Digest movie

中間ボーナスタイムとステージ 全員で谷の順位を1つでも上に

2日間で行われるツール・ド・熊野。ステージ2となる「太地半島周回コース」は熊野灘沿いの和歌山県太地町が舞台となり、2023年は過去のコースとは違う新ルートが用意された。文字通り太地半島を周回するルートは起伏に富み、テクニカルな下りも多く厳しい展開が予想される。だが前日と同様の快晴に恵まれ、くじら浜公園周辺の沿道には応援に駆けつけた地元住民の姿も多かった。

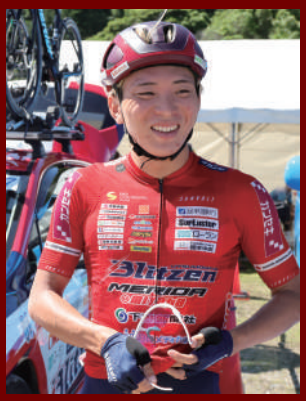
レース序盤は前日に逃げ切り勝利で黄色のリーダージャージを獲得した山本大喜選手を擁するJCLチーム右京が主軸となり、アタックが起こるたびにチェックを入れる。この日はスプリントポイントが2周目と5周目の完了時点に設けられ、各スプリントポイントを上位で通過すればボーナスタイムが獲得できる。宇都宮ブリッツェンは個人総合6位のキャプテン・谷順成の順位を少しでも上げるべく、メイン集団で様子をうかがった。

最初のスプリントポイントで谷は惜しくもスプリントに絡めず、次の機会を待つ。3周目に入ると愛三工業レーシングチーム勢が先頭でペースを作り出し、道幅の狭い区間で攻撃を仕掛けてきた。集団は長い棒状となり、後方では遅れも発生していた。周回を重ねるごとにレースは活性化し、サバイバルレースに。宇都宮ブリッツェンは阿部嵩之が集団前方で目を光らせ逃げに備えていたが、2回目のスプリントポイントに向けて上がってきたのは小野寺玲だ。ジャンバルジャムツ・セインベヤール選手（トレンガヌ・ポリゴン・サイクリングチーム）に次ぐ、2番手でスプリントポイントを獲得した。谷は8番手で通過した。

スプリントポイント後に山本元喜選手（キナンレーシングチーム）が単独で逃げを決めた。前日は60位でトップから6分遅れ、後続も容認したのか一人旅が始まったが、そこにチームメイトのトマ・ルバ選手が合流。キナン2名の新たなエスケープとなり、7周目を終えて後続に35秒までリードを広げた。

集団はファイナルラップ突入時点で先頭2名とのタイム差は48秒。宇都宮ブリッツェンも集団の牽引に加わると、じわじわと差は縮まる。しかし前日に逃げ切ったJCLチーム右京の2名のようにキナン勢も粘りを見せ、そのままワンツーフィニッシュを成し遂げた。1位は山本元喜選手となった。

3位以降はスプリントとなり、宇都宮ブリッツェンは小野寺の11位が最高位。個人総合での宇都宮ブリッツェン最高位は谷の11位となった。個人総合時間賞は前日2位で、ステージ2は21位の岡篤志選手（JCLチーム右京）が獲得。チームメイトで初日1位の山本大喜選手がパンクで遅れ、同タイムだが30位になったため順位が変動した。



【西村監督のコメント】

激しいレースになった。谷がスプリントポイントでボーナスタイムを獲得できるようトライしたが、谷と総合同タイムの選手が獲ることになった。

選手個々の力も、チーム全体の力も上がった。団結力もよくなり、成長できた大会になった。全日本は優勝目指し、宇都宮ブリッツェンからチャンピオンが生まれるようにチーム一丸で頑張りたい。

ツール・ド・熊野 2023 ステージ 2 リザルト

1位	山本元喜（キナンレーシングチーム）	2:31:27	11位	小野寺 玲	+00:26
2位	トマ・ルバ（キナンレーシングチーム）	+00:00	17位	谷 順成	+00:26
3位	ゲオルギオス・パグラス（マトリックスパワータグ）	+00:26	26位	沢田 時	+00:26
			35位	阿部嵩之	+02:51
			DNF	フォン・チュンカイ	
			DNF	本多晴飛	

第26回全日本選手権個人タイム・トライアル

最低限の目標、谷と阿部がUCIポイントを獲得

出場した3人が自分の走りに集中 今持てるすべてを出し切ったTT

2005年以来、実に18年ぶりに日本サイクルスポーツセンターで開催される全日本選手権。近年定められたUCI規定の「1周10km以上」を満たしていないため、このところ開催が見送られてきたが、今回はUCIに適用免除の申請をし、決戦の地として返り咲いた。アップダウンとコーナーの激しいコースで、このコースでは日本一になることが難しい選手がいることは否めないが、逆に得意とする選手にとっては、18年ぶりにチャンスが回ってきたとも言える。

初日は、個人タイムトライアルが開催された。すべてのエリート選手が出場するのではなく、宇都宮ブリッツェンからは、谷順成、阿部嵩之、本多晴飛が出走。

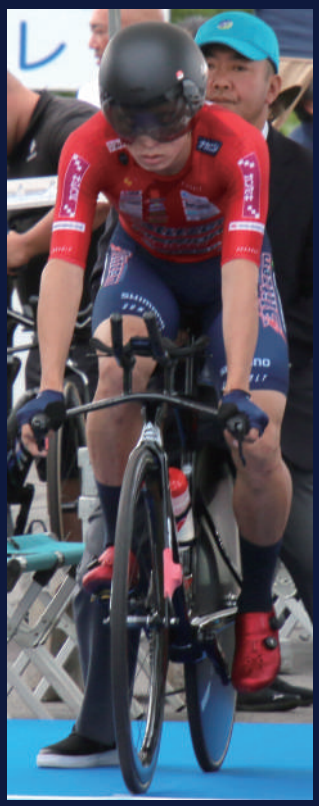
13時30分よりスタートしたWAVE1では、本多、谷の順にスタート。谷はレース前、「タイムトライアルの出場機会がこれまであまりなかったので、ライバルを意識するよりは自分自身のベストを出すことに集中したい」と語っていたが、その言葉通り最後まで集中力を切らさず、「下りでロスしないこと」、「踏むところと休むところをハッキリさせ、インターバルのように走ること」を心がけ、WAVE1の中では2位でフィニッシュ。本多もエリートでの出走は初出場ながらも4位と奮闘。WAVE1の1位は今絶好調の岡篤志選手（JCL TEAM UKYO）で、中間計測タイムでもトップを譲ることなく独走したが、それに続く2位に谷、4位に本多が入ったことは善戦といえよう。

14時30分よりスタートしたWAVE2は、昨年の個人TT上位勢がほとんどを占め、宇都宮ブリッツェンからは阿部がこの組でスタート。阿部は前半こそ順位を落としていたが、後半の伸びが素晴らしく、全22人中16位から、最後は9位にジャンプアップ。10位以内に与えられるUCIポイント（9位は1ポイント）を獲得した。

WAVE2が全員フィニッシュすると谷は6位、本多は13位となったが、これにより谷もUCIポイント5を獲得。西村大輝監督は、「結果が出ずとも最低限UCIポイントは取りたい」としていたので、初の指揮を執る全日本選手権としてはまずまずの滑り出しとなった。

なお、レース全体としては小石祐馬選手（JCL TEAM UKYO）が優勝。昨年は2位に泣いた小石選手だったが、エリートでは初タイトルとなった。一方昨年優勝の金子宗平選手（群馬グリフィンレーシングチーム）は落車の影響で7位に。この全日本のために帰国した新城幸也選手（Team Bahrain Victorious）は今年も3位だった。

宇都宮ブリッツェンは2日後のロードレースに向けてもう一度集中し直し、チーム創設から悲願としている「ロードでの全日本チャンピオン」を狙う。



全日本選手権個人タイム・トライアル リザルト

1位	小石祐馬（JCL TEAM UKYO）	44:32:49		6位	谷　順成	+2:23:62
2位	山本大喜（JCL TEAM UKYO）	+28:04		9位	阿部嵩之	+2:50:06
3位	新城幸也（Team Bahrain Victorious）	+50:64		13位	本多晴飛	+3:44:09

【阿部嵩之のレース後のコメント】

登りと下りが中心で自分の得意とする平地区間がほとんどないので、正直武が悪いと感じていた。下りのライン取りやペースの安定を心掛けて、後半に向けてタイムを上げていった。今の自分にはベストな走りだったと思う。

【本多晴飛のレース後のコメント】

中盤まではいいペースで走れていたが、後半ペースを落としてしまった。ただ、上位メンバーのタイムを見比べてみても、パワーとスタミナ、さらにエアロフォームなど課題が見えたので、また来年の全日本でリベンジしたい。

第91回全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース

サバイバルレースの中 谷順成が追走に残り9位

5分以上広がった逃げとの差を積極的に縮めたブリッツェン

2023年の舞台は23日に行われた個人タイム・トライアルと同じ、伊豆の日本サイクルスポーツセンターだ。コース設定は1周8㎞を20周する合計160㎞だが、アップダウンが繰り返され、1周あたりの獲得標高差は約250mになる。20周回では約5,000mの標高差、そして平坦区間がほとんどないレイアウトは厳しい戦いが予想された。スタート前は氷で体を冷やす選手の姿もあり、暑さ対策も必要だった。

この日は昨年まで宇都宮ブリッツェンで長年エースを務めた増田成幸選手（JCL TEAM UKYO）の復帰戦でもあった。2022シーズンJCL第9戦しおやクリテリウムでの落車で大怪我を負った増田選手。スタート前には元チームメイトの阿部嵩之の元に駆け寄り、談笑する姿も見られた。

レースは4周目で8名の逃げ集団が形成された。石上優大選手（愛三工業レーシングチーム）、渡邊翔太郎選手（同右）、橋川丈選手（EF Education-NIPPO Development Team）、岡篤志選手（JCL TEAM UKYO）、山本大喜選手（同右）、山本元喜選手（KINAN Racing Team）、井上文成選手（シマノレーシング）、石井祥平選手（アーティファクトレーシングチーム）だ。

6周を終えて逃げる8名とメイン集団のタイム差は5分25秒まで広がった。前年チャンピオンの新城幸也選手（Team Bahrain Victorious）が追走の動きを見せ始めると、宇都宮ブリッツェンをはじめとする有力チームもペースを上げる。メイン集団は長い棒状となり、力のない選手は次々と脱落していくサバイバルレースに。

序盤に宇都宮ブリッツェンは阿部や堀孝明、本多晴飛が積極的な動きを見せたが逃げ集団に加わることは叶わず。そのためメイン集団でも脚を休ませることなく、エースの谷順成を勝利に導くために小野寺玲が先頭でペースを作ると、沢田時らも協力して逃げ集団を追った。

小野寺の牽引もあり、レースは半分を終えてタイム差は2分40秒ほどまで縮まる。逃げ集団でも動きがあり、半分の4名が脱落した。石上選手、岡選手、山本大喜選手、山本元喜選手が生き残りローテーションを繰り返す。逃げ切りを狙う先頭4名はペースアップを図り、残り7周でアドバンテージは3分10秒以上まで持ち直した。

メイン集団もスピードを上げると選手たちはふるいにかけられ、残り5周で20名弱に絞られる。宇都宮ブリッツェンでは谷が生き残って存在感をアピール。逃げの4名とは残り4周で2分20秒差まで詰めていた。

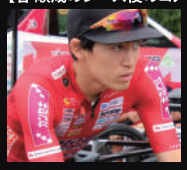
谷ら追走は10名に減り、残り2周となった時点でタイム差は1分44秒までに縮まった。同じ頃、逃げ集団から山本大喜選手がアタックし、そのままファイナルラップに単騎で突入。力強く独走して逃げ切り、初の全日本タイトルを手に入れた。2位にチームメイトの岡選手に入り、JCL TEAM UKYOは個人タイム・トライアルに続くワンツーフィニッシュ。山本元喜選手は3位に入り、弟の大喜選手とともに表彰台となった。

宇都宮ブリッツェンは、谷の9位が最高位。優勝には届かなかったが、追走集団でトップ10入りを果たした。

全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース リザルト

1位	山本大喜（JCL TEAM UKYO）	4:42:14		9位	谷 順成	+04:45
2位	岡篤志（JCL TEAM UKYO）	+01:32		DNF	沢田 時	
3位	山本元喜（KINAN Racing Team）	+01:37		DNF	小野寺 玲	
				DNF	本多晴飛	
				DNF	堀　孝明	
				DNF	阿部嵩之	
				DNF	中村魁斗	

【谷 順成のレース後のコメント】



今日は勝つか、それ以外だったので、9位に対しては悔しいの一言しかない。前日のミーティングで（レース展開の）選択肢を絞っていたが、その絞った方にならなかったため後手に回ってしまった。でもチームメイトが懸命にアシストしてくれたため、自分に力があれば後半でも追いついて勝利できたと思う。

単純に自分が力勝負に負けた。今日まで調子を上げてきたので、チームとしても決して戦えなかったわけではない。次の広島の大会でもチーム一丸となって優勝を目指したい。

2023 シーズン後半戦のポスターが完成しました

厳しい前半戦となった 2023 シーズン。
後半戦のテーマは **「反撃開始」**
赤いイナズマトレインが右肩上がりでシーズン後半戦を駆け抜けます！

2023 ROAD Race Schedule

8/19	(土)	シマノ鈴鹿ロード チームタイムトライアル
8/20	(日)	シマノ鈴鹿ロードレースクラシック
9/8(金)〜9/10(日)		ツール・ド・北海道 2023
9/24	(日)	JCL 高知ロードレース
9/30	(土)	おおいたこいの道クリテリウム
10/1	(日)	おおいたアーバンクラシック
10/6(金)〜10/9(月)		マイナビ ツール・ド・九州 2023
10/14	(土)	ジャパンカップクリテリウム
10/15	(日)	ジャパンカップサイクルロードレース
11/4	(土)	JCL ながとクリテリウム
11/5	(日)	JCL 秋吉台カルストロードレース
11/12	(日)	ツール・ド・おきなわ

2023 MTB Race Schedule

9/2	(土)	Coupe du Japon 白馬岩岳
9/3	(日)	Coupe du Japon 白馬岩岳
9/25	(月)	アジア大会 中国・杭州
10/22	(日)	Japan Mountain Bike Cup 静岡
10/28	(土)	アジア選手権 インド

※レーススケジュールは変更になる場合があります。

私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

Thank you for your support